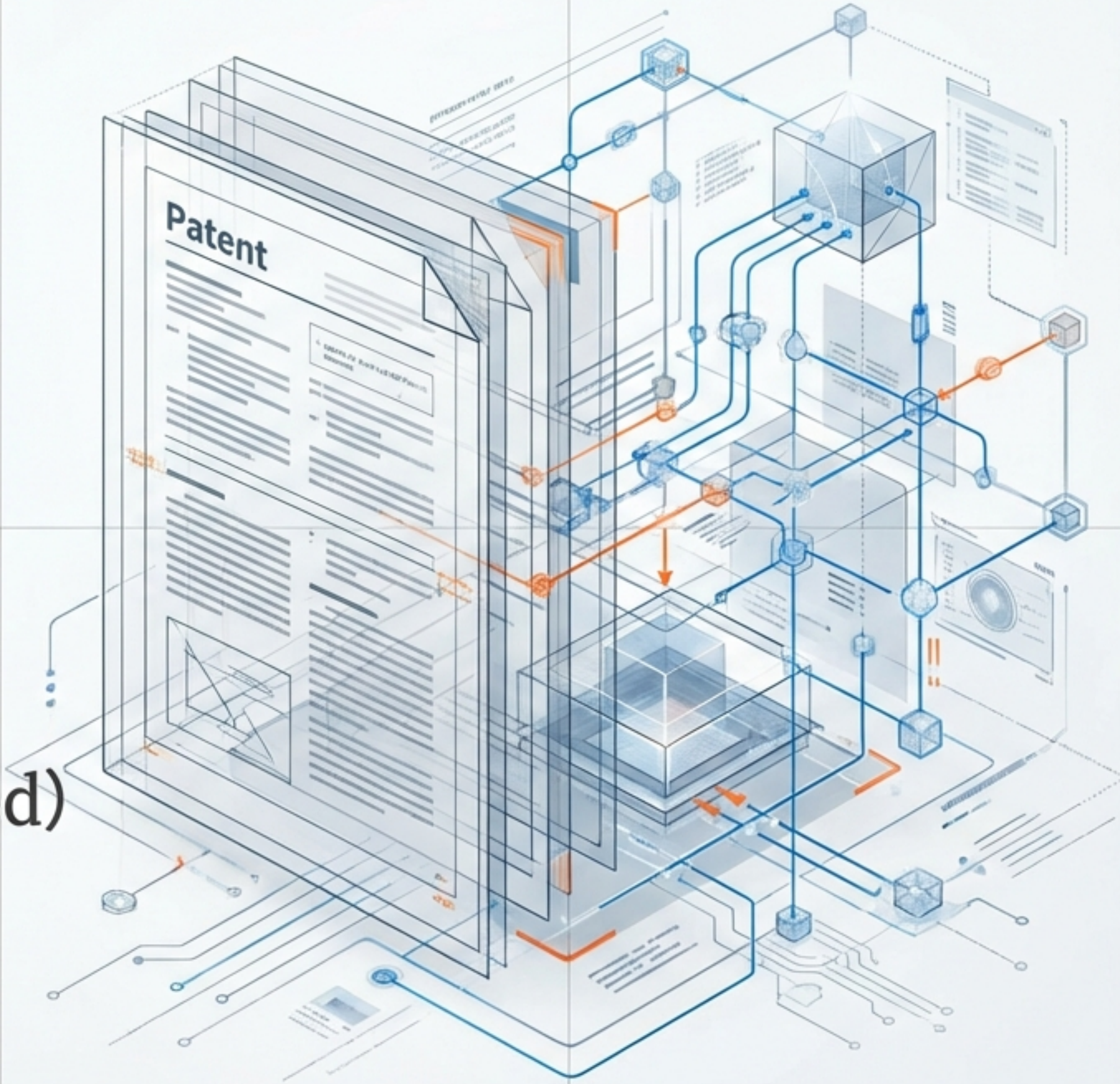


Summariaと知財DX の現在地：自律型AI エージェントによる 特許実務の再定義

最新機能「調査支援ツール」、
LLM選択戦略、および競合3社
(Patentfield/Tokkyo.ai/Amplified)
との徹底比較【2026年版】

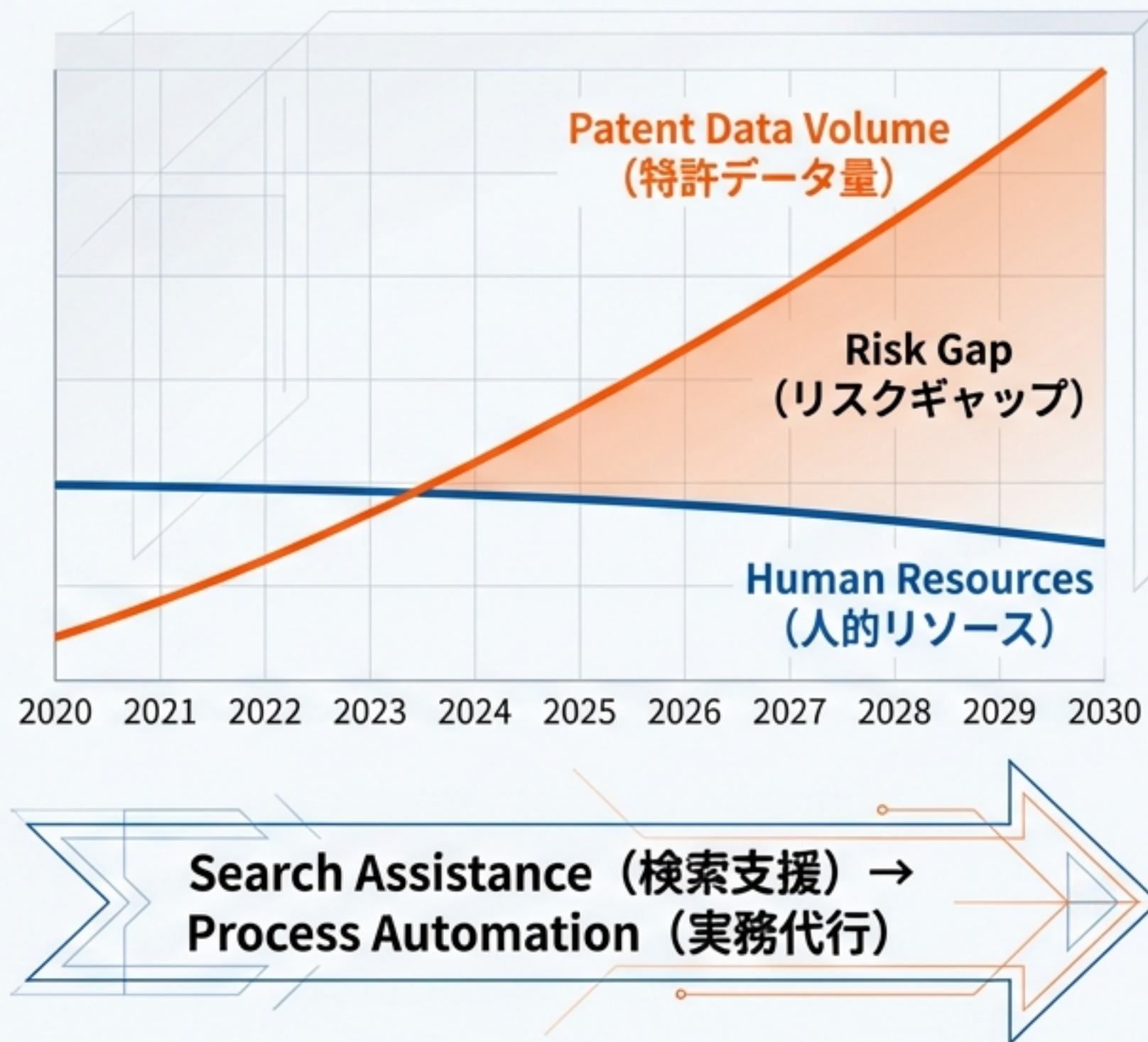
COMPREHENSIVE ANALYSIS REPORT 2026



2026年の知財パラドックス：特許爆発と人的リソースの限界

- 世界的な特許出願の急増と技術の複雑化。
- 日本国内における熟練サーチャー・弁理士の高齢化と人材不足。

Insight: 従来のキーワード検索と人海戦術による「精読」プロセスは、物理的な限界（破綻）を迎えている。



求められているのは検索精度の向上ではなく、「読む」という認知プロセスの代替である。

概念の転換：「アシスタント」から「自律型エージェント」へ

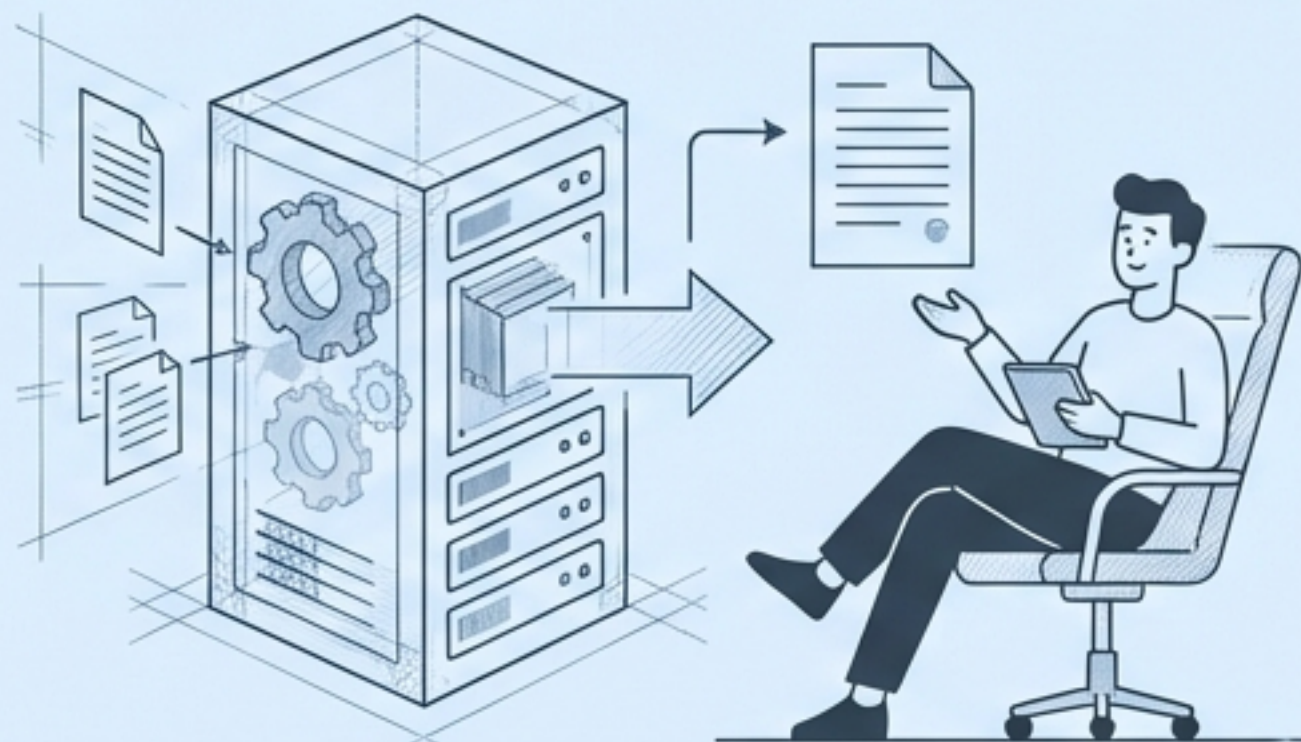
Traditional Tool (検索ツール)



ユーザーが検索式作成 → ツールが5,000件ヒット →
ユーザーが全て読む

認知負荷 = 人間 (Human)

Autonomous Agent (Summaria 2026)

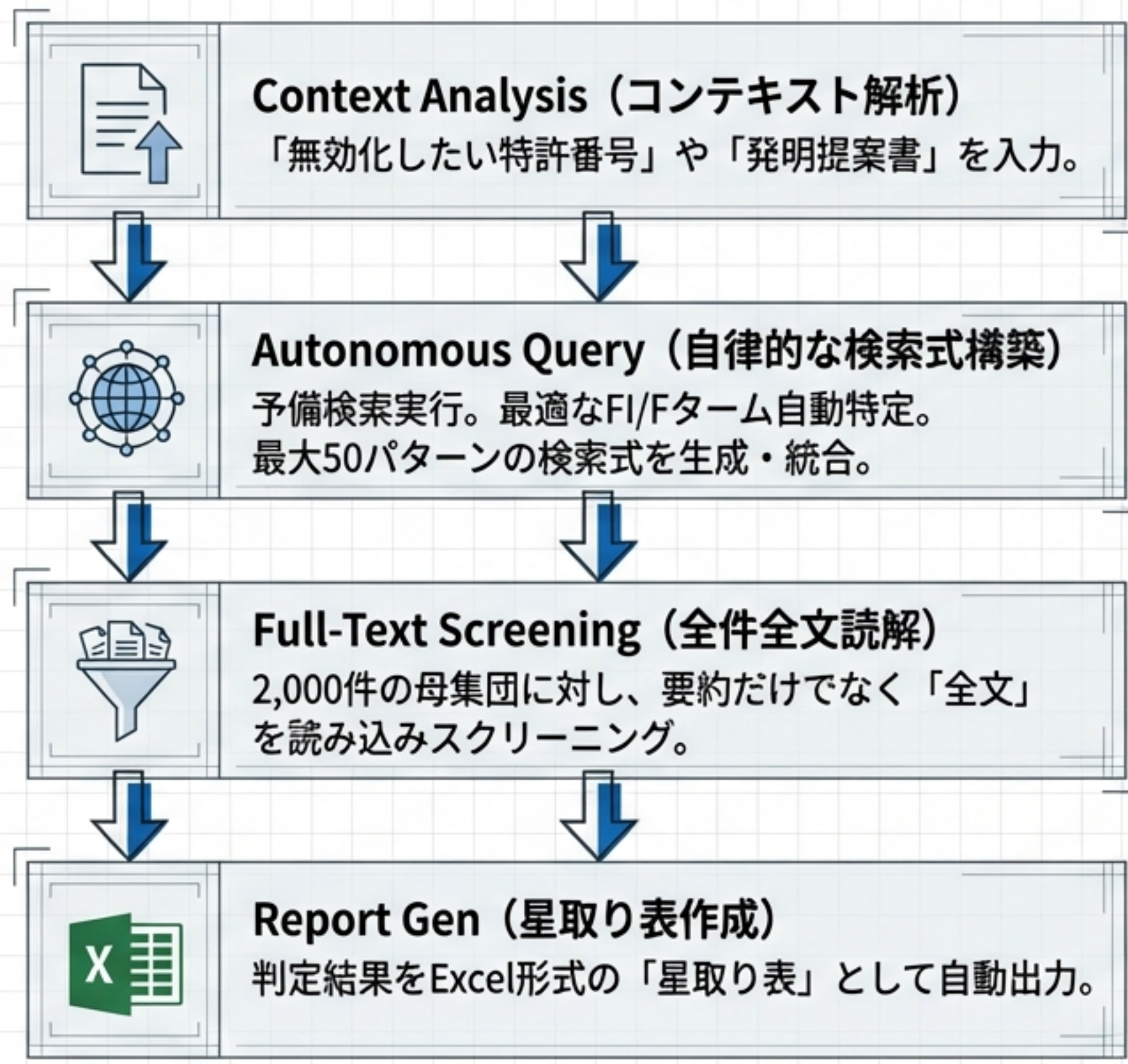


ユーザーが「発明メモ」入力 → エージェントが検索式・
スクリーニング・レポート作成 → ユーザーは検証のみ

認知負荷 = マシン (Machine)

2025年12月のアップデートにより、Summariaは「特許要約ツール」から「実務代行プラットフォーム」へと進化した。

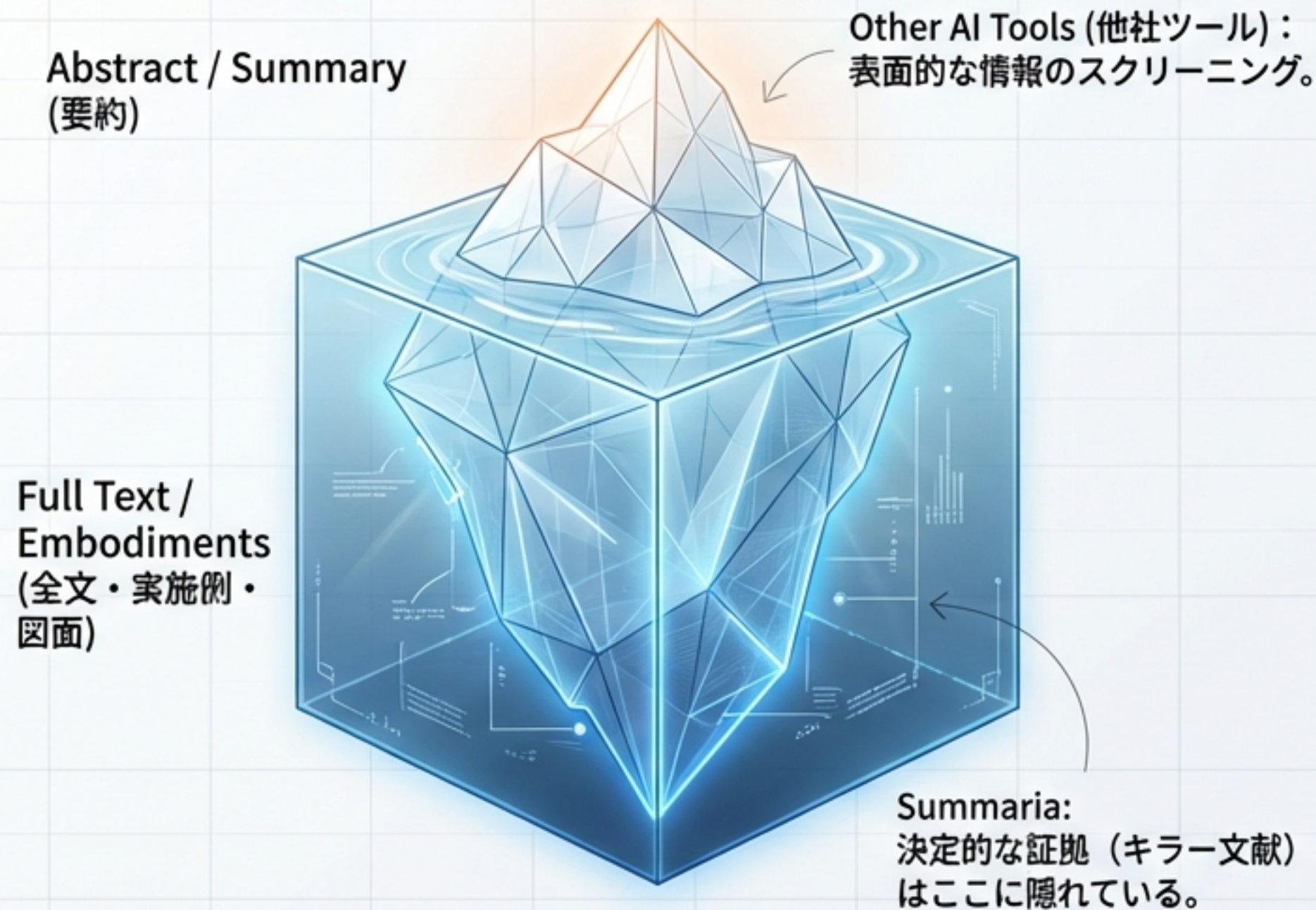
ゲームチェンジャー：「調査支援ツール」の自律実行プロセス



20 hours → Tens of minutes

従来20時間以上を要した工程を、
数十分レベルに短縮。

なぜ「全文読解」が必要なのか：要約スクリーニングの落とし穴



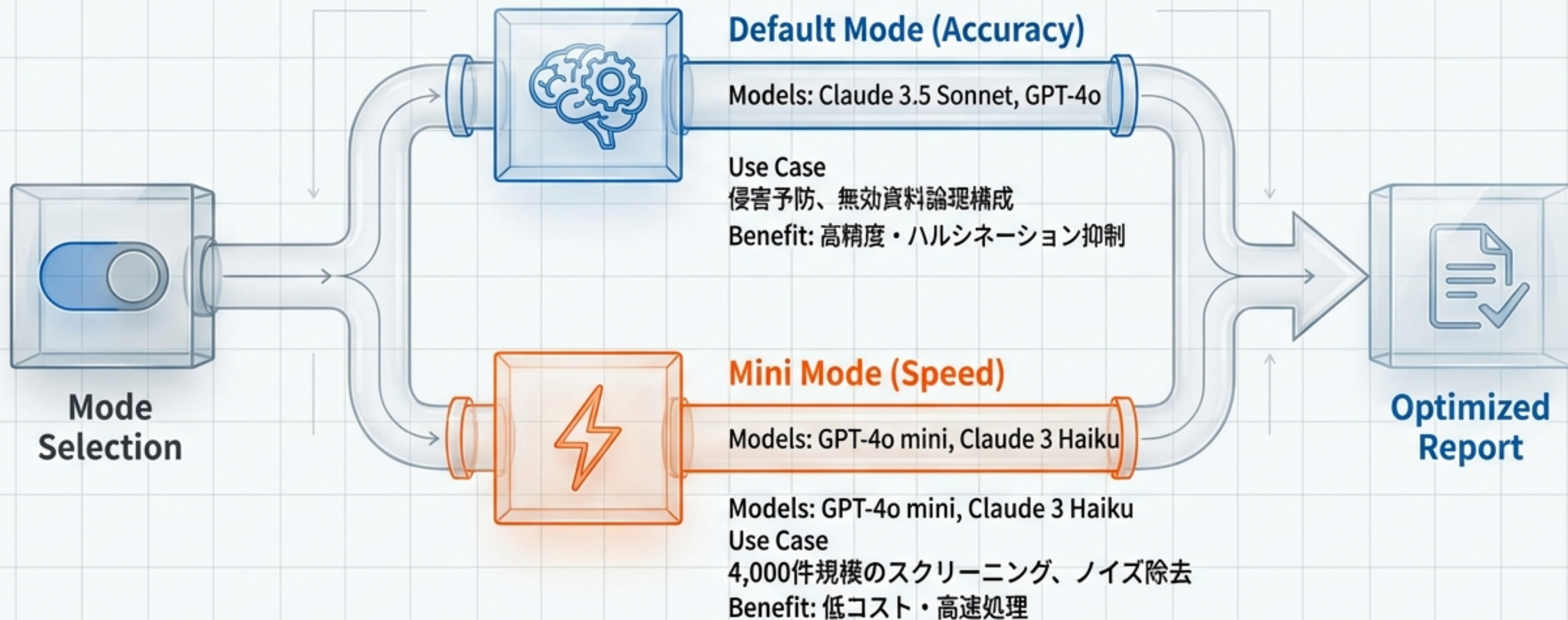
Insight

無効資料や侵害のエビデンスは、往々にして「実施例」の数値限定や「図面」の細部に隠れている。

Advantage

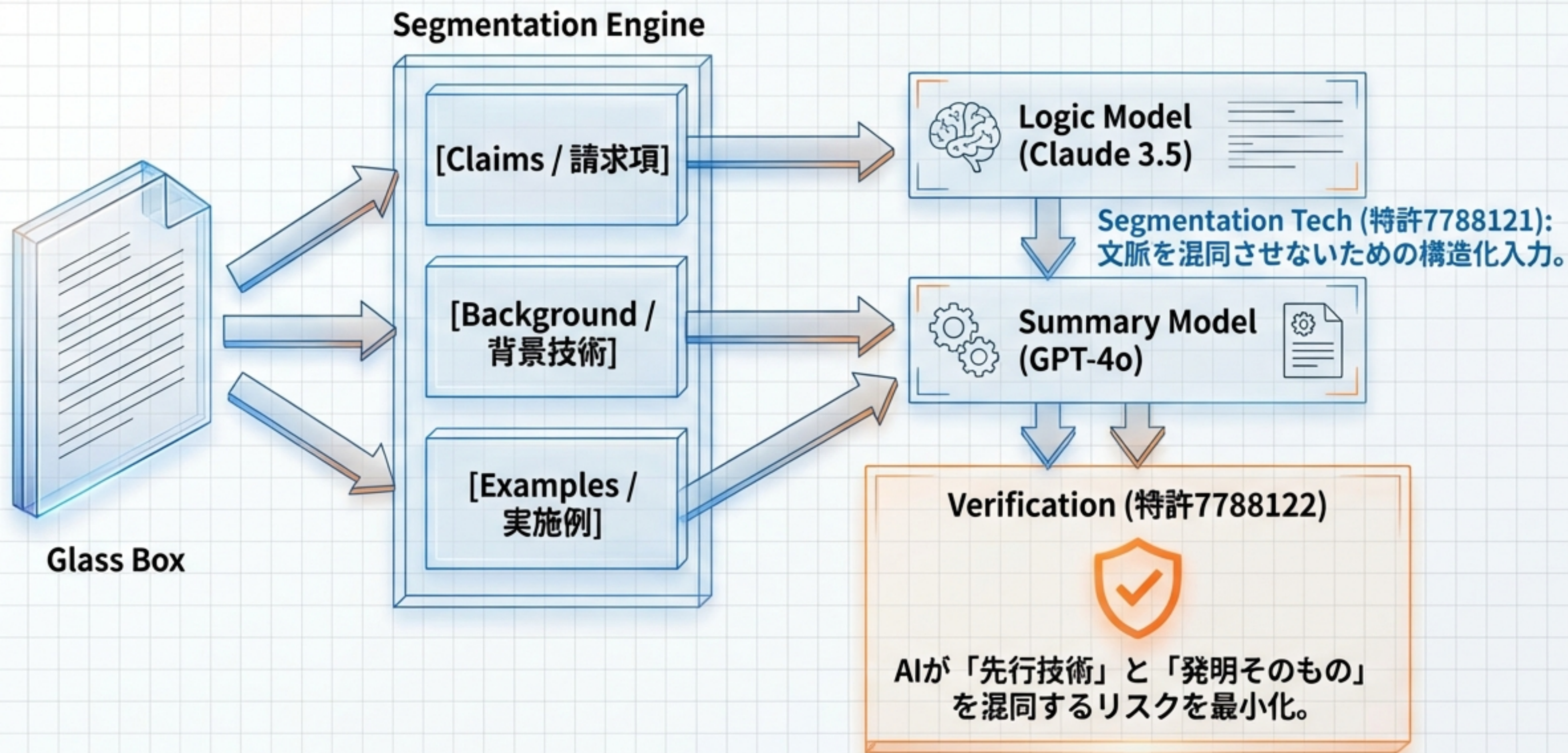
「完全検索 (Complete Search)」機能により、2,000件規模の文献の【請求項】だけでなく【実施例】まで深く読み込み、見落としリスクを排除する。

マルチLLM戦略：コストと精度の最適化アーキテクチャ

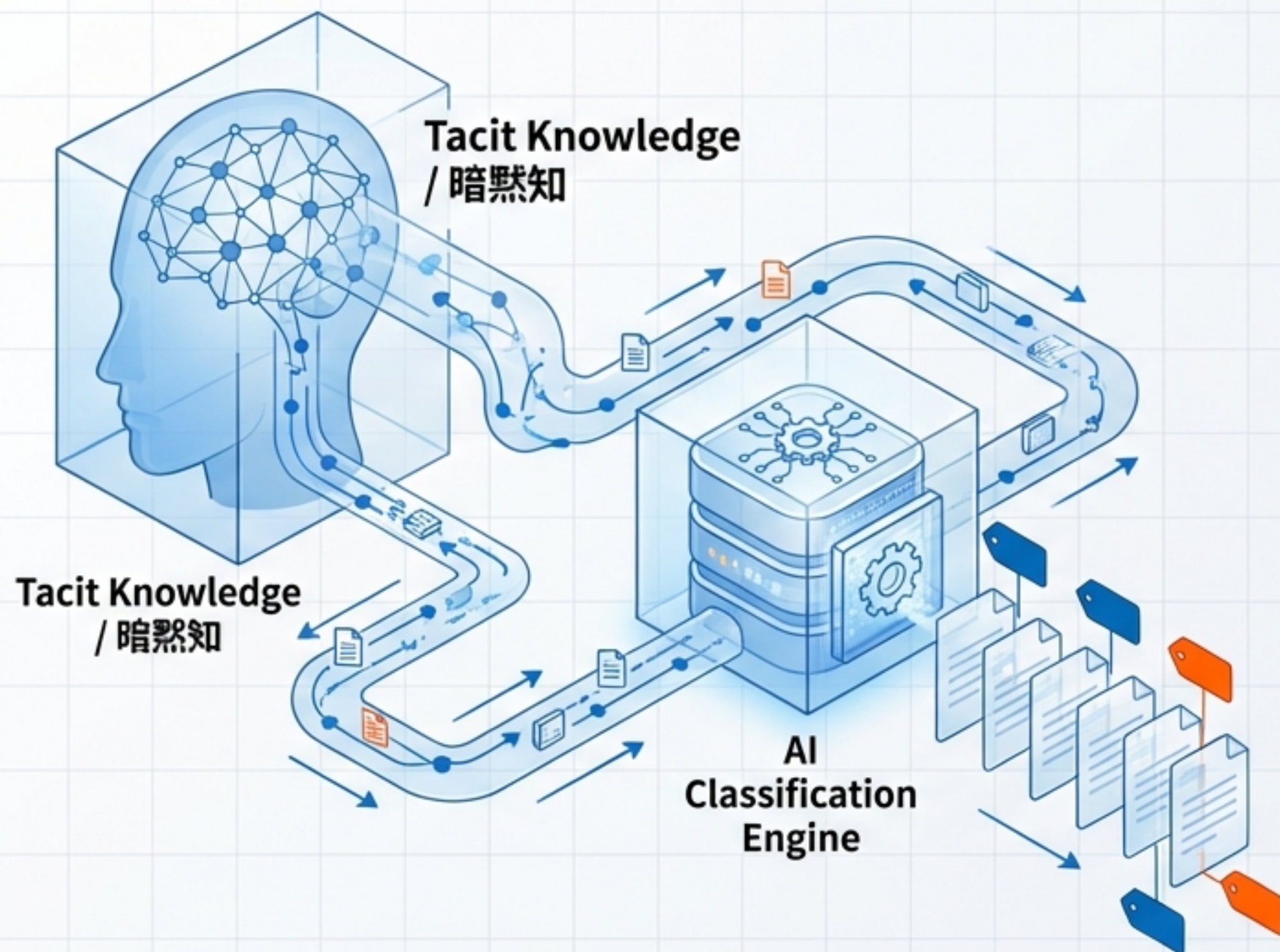


全てに高価なモデルを使わず、「ティア（階層）別アプローチ」でROIを最大化する。

信頼性の担保：ハルシネーションを抑制する特許技術

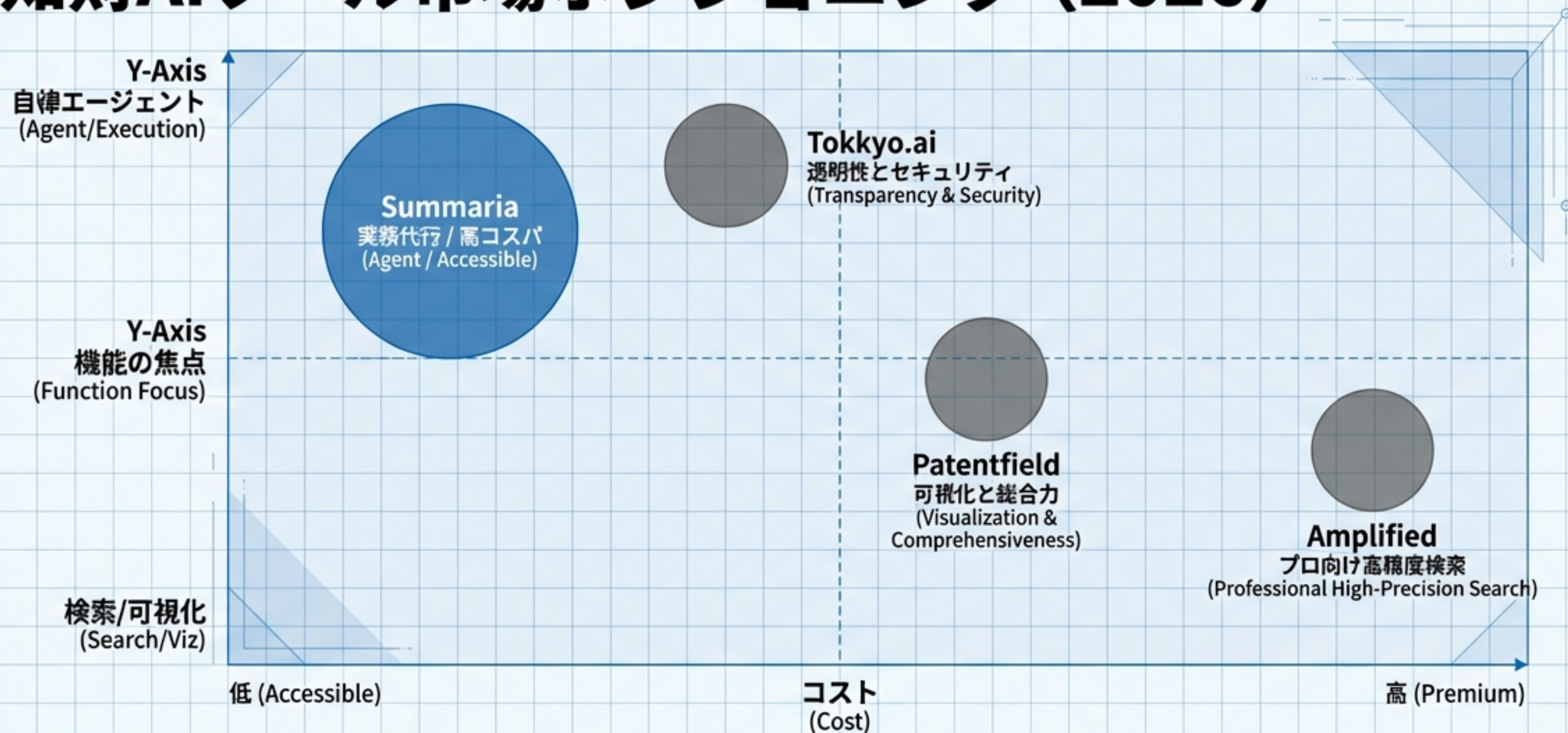


暗黙知のデジタル化：AI特許分類支援



- **Context:** 企業の知財部員が持つ「自社特有の分類ルール」は属人化しやすい。
- **Solution:** ユーザー独自の分類定義や教師データをAIに学習させる機能。
- **Benefit:** ベテランの「勘所」をAIに継承させ、分類作業を標準化・自動化する。

知財AIツール市場ポジショニング（2026）



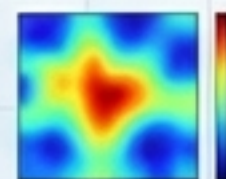
X軸は「コスト（低～高）」、Y軸は「機能の焦点（検索/可視化～自律エージェント）」を表す。Summariaは低コストかつ深い実務代行（Deep Agent）領域に位置し、Amplifiedは高コスト・高精度検索領域、Patentfieldは広範な分析領域に位置する。

Competitor Focus: Patentfield

可視化と総合分析のプラットフォーム



Pros (強み)



- Visualization: パテントマップ（課題解決マトリクス）作成能力は圧倒的。
- Data Scale: 8,000万件規模のデータとグローバル動向把握。
- M&A Support: パテントスコアによる価値評価。



Cons (課題)

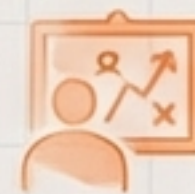
- 「自律的な実務代行」の深度は検索補助の域を出ない。個別の判定は人間が必要。

Best For

● 知財分析官



● 経営企画



● マクロトレンド分析



Competitor Focus: Tokkyo.ai

プロセスの透明性とセキュリティの守護者



Pros (強み)



- Deep Agent: AIの思考プロセス（調査順序・判断根拠）を可視化。
- Security: プライベートクラウド対応。
- Ecosystem: 知財マーケットプレイスとの連携。



Cons (課題)

- セマンティック検索の純粋な再現率（Recall）については議論の余地あり。

Best For

- 大手企業の管理部門
- セキュリティ重視のプロジェクト

Competitor Focus: Amplified

プロフェッショナル向け高精度セマンティック検索

Engineering Blue Pros (強み)



- Concept Search: 言語の壁を超えた概念マッチング（ベクトル検索）の世界最高峰。
- Precision: キーワード不一致でも技術思想が似ている文献を発見（Last Line of Defense）。

Signal Orange: Cons (課題)



- Cost: 高額（月額\$500〜）。
- Focus: 検索特化。レポート作成や分類機能は限定的。

Best For

- 訴訟対応
- 絶対失敗できない無効資料調査
- プロのサーチャー



ユースケース別 対決：クリアランス vs 無効資料

Scenario A: 侵害予防調査 (Clearance Search)

新製品リリース前の数千件のスクリーニング

SUMMARIA



- 自動でのFI/Fターム特定 → Miniモードでの高速スクリーニング
→ Defaultモードでの精密判定。工数削減効果が最大。



Scenario B: 高難易度の無効資料調査 (Invalidation)

訴訟リスクのある特許を無効にする
「キラー文献」の発見



HYBRID (Amplified + Summaria)

- 概念検索に強いAmplifiedで「隠れた文献」を探し出し、
Summariaで「無効化論理」を構築する戦略が最強。

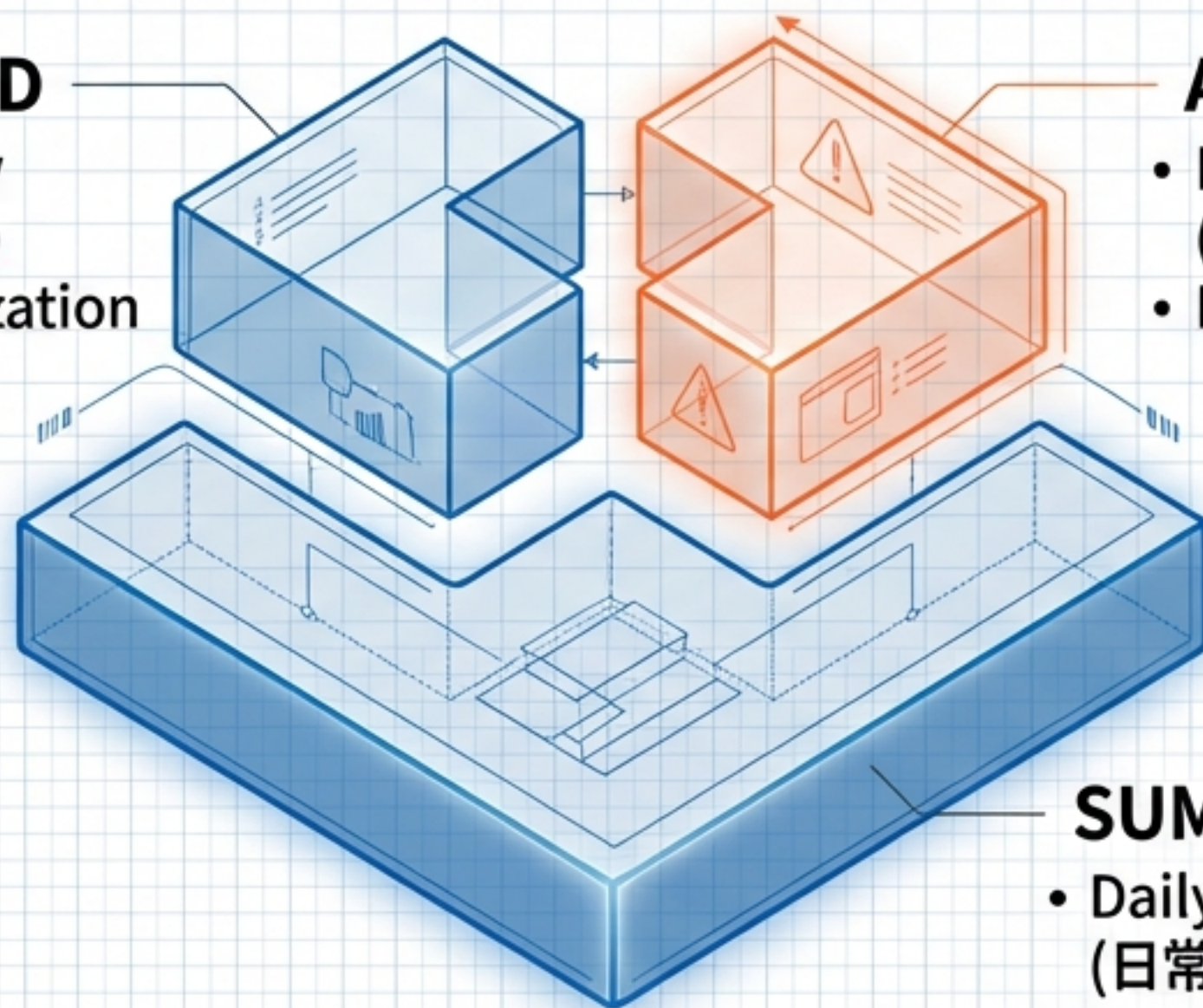


戦略的提言：「Best of Breed」によるツールポートフォリオ

単一ツールですべてを解決するのではなく、適材適所で組み合わせる。

PATENTFIELD

- Mgmt / Strategy
(経営報告・戦略)
- Benefit: Visualization



AMPLIFIED

- Litigation / Crisis
(訴訟・有事)
- Benefit: Precision

SUMMARIA

- Daily Ops / Screening
(日常業務・スクリーニング)
- Benefit: Cost & Time Saving

Target Fit:

SMBs/Firms use Summaria (All-in-one).
Large Enterprises use the Integrated Stack.



結論：知財担当者の「二人目の脳」として



- **Agent Evolution:** 実務は「検索」から「検証」へ。人間はAIの成果物を監査する役割にシフトする。
- **Cost Control:** 「Mini」と「Default」の使い分けこそが、AI全盛期の実務リテラシーである。
- **Practical Solution:** Summariaは、リソース不足に悩む日本の知財現場における現実解である。

Summaria is the entry point to the Autonomous Age.